

# 英語初学者への書字指導に関する一考察 — b と d に焦点をあてて —

鹿住尚子<sup>1</sup>

## 1 はじめに

### 1-1 問題の所在

小学3年生の国語科において、児童はローマ字学習という形で初めてアルファベットの書き方指導を受ける。その後、5年生の外国語（英語）においても「書くこと」を学ぶが、学習指導要領ではアルファベットの書字指導方法についての詳しい記述はなく、使用する教科書や指導者に委ねられている部分が多い。アルファベットの文字はシンプルであるが故に児童にとってbとdなど判別が難しく感じるものも多く、混同して書いてしまうことも少なくない。また、“b-d letter reversal”と検索をすると、英語圏のサイトで様々な指導法やワークシート、ビデオが紹介されており、母語話者にとっても判別困難な文字として扱われていることがわかる。アルファベットには、決まった筆順や筆法はないというもの、初めて書き方を学ぶ際は、小学校1年生でひらがなを習うのと同様に丁寧な指導が不可欠であると思われる。

b-d, p-q といった鏡映文字<sup>2</sup>関係相互の誤りは、5歳児に多く見られ、6歳児になると急速に減少し、9歳児まで一貫した減少傾向が見られる（田中・安福, 1974:98）が、実際に指導を行っている9歳を過ぎても書き間違えている児童が少なくなく、中学生でも間違いが見受けられる。今回はアルファベットの中のbとdの文字に焦点をあてながら、日本語を母語とする児童が、外国語としてアルファベット文字を初めて学習する際に、どのような文字指導が好ましいかを検討したい。

### 1-2 研究の目的

上記の問題認識から、本研究における研究の目的は以下の3点となる。

- (1) 小学校におけるアルファベットの書字指導の実際を明らかにする。
- (2) 英語を母語とする国々での手書き文字指導の実態を明らかにする。

<sup>1</sup> 本学人文科学研究科英語文学専攻科目等履修生

<sup>2</sup> 鏡映文字（鏡文字）とは、鏡に写った形のような、左右が逆に書かれた文字のこと。

(3) 多感覚統合フォニックス<sup>3</sup>を援用した文字指導の効果を明らかにする。

### 1-3 研究の方法

上述の「研究の目的」を達成するため、本研究では以下の研究方法をとることとする。まず、第2章では、小学校における文字指導（ひらがな指導とアルファベット指導）の現状を学習指導要領における国語科と外国語科の手書き文字指導の取り扱いを精査することによって明らかにする。次に、第3章では、英語を母語とする国々、具体的にはイギリスとアメリカの手書き文字指導の実態を調査する。そして、第4章では、英語教室に在籍している児童に多感覚統合フォニックスに位置づけられる「ジョリーフォニックス<sup>4</sup>」の要素を取り入れたワークシートを使用して、あらためて文字指導を行い、指導後に児童にアンケートを実施する。また、指導前と指導後にそれぞれアルファベットの小文字を書く様子を録画し、書き方の変化を調査する。なお今回は、書き間違いの多いbとdに着目し、比較を行うこととする。

### 1-4 先行研究

酒井・小林・滝沢・伊東（2018:14）はそれまでの先行研究を踏まえた上で、公立小学校6年生98名を対象としたアルファベットの大文字・小文字を4線上に順番に書くテストを行い、誤りの分析を行った。それによると、

大文字においては各文字（特にアルファベットの順番において近い文字）が特有の形をしているため、混乱が起きづらいが、小文字においては大文字よりも形態の類似性を持つ文字が多くなり、そのため学習を困難にしていると考えられる。

と述べられている。この分析では、大文字・小文字ごとに誤りを6つのカテゴリー（「他の文字との混同」「大文字・小文字の混同」「鏡映文字」「大きさ・長さの誤り」「配置の誤り」「変体」）に分類し、集計した結果、誤りの中で最も頻度が高かったのは「他の文字との混同」で、大文字では104件、小文字では80件あった。

大文字ではN（31件）、M（27件）、L（16件）の3文字の頻度が高く、これらは音声的類似性、もしくはアルファベットの順番の近さ、及びその組み合わせによるものと推測さ

---

<sup>3</sup> 多感覚統合フォニックスとは、システマティック・シンセティック・フォニックス（系統立った統合的フォニックス指導）の枠組みを基盤に、多感覚を重視し系統立てて指導を行う学習方法を指す。世界各国で母語としてだけでなく、第2言語・外国語の英語学習指導環境においても実践され、その効果が検証・報告されている（加藤他, 2020:273）。

<sup>4</sup> ジョリーフォニックスとは、イギリスの Jolly Learning 社 が出版しているシンセティック・フォニックスの教材/プログラムで、英語の「音と文字の関係」を多感覚で指導・学習する。

れた。それに対し、小文字においては、b (12 件)、d (11 件)、m (16 件)、n (13 件) の頻度が高く、b は 12 件全てが d との混同、d は 11 件中 10 件が b との混同、m は 16 件中 15 件が n との混同、n は 13 件中 12 件が m との混同であった。m と n の混同は大文字小文字ともにみられたのに対し、b と d の混同は小文字のみで出現した。この混同は、音声的類似性、アルファベットの順番の近さ、さらに形態的類似性の組み合わせによる可能性がある」と指摘した。

土屋 (2019:60) は、小学校国語科におけるローマ字学習と外国語教育における連携の必要性について言及している。第 3 学年におけるローマ字学習と第 5・6 学年で外国語活動での指導は、別々の学習として位置づけられているものの、「文字教育」という視点で見ると、アルファベットを扱う点では共通している。しかし、従来は繋がりや接点がないまま並行して行われてきた。それにより両者とも同じアルファベットを扱うにもかかわらず、別のものであるかのように指導が行われている実態が、子どもたちの混乱を招いているという現状に触れ、ローマ字学習の際、第 3 学年の児童はアルファベット文字の初期学習者であるという意識を持って、指導の手順を丁寧かつ慎重に考える必要があると述べている。

小野 (2021:3) は、英語の文字を「書くこと」についての先行研究を、特別支援教育と英語教育の 2 つの観点から分析し、学習者が書く際の「つまづき」の共通のキーワードとして「鏡文字」「フォント」「特に小文字の難しさ<sub>ママ</sub>」「四線」「音や形の類似」「アルファベット順」を挙げている。

しかし、この中の「フォント」については、2020 年度より使用されている小学校外国語 (英語) 科の全ての検定教科書にユニバーサルデザインのフォント (以降、「UD フォント」) が採用されており、文字学習入門者や識字に問題をかかえている生徒への配慮がされている (鹿住, 2021:31)。

## 2 小学校における文字指導 (ひらがな指導とアルファベット指導)

### 2-1 平成 29 年学習指導要領の国語科での「書くこと」の取り扱い

小学校で行われる文字指導には、国語での第 1 学年より始まるひらがな・カタカナ・漢字の書字指導、および第 3 学年で学習するローマ字学習の中でのアルファベットの書字指導、そして外国語科での第 5 学年より始まるアルファベットの大文字・小文字の書字指導がある。

まず、国語科では、「書写」に関する事項の中で、第 1 学年及び第 2 学年の指導の留意点として (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと、(イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと、(ウ) 点画相互の接し方や交わり方、

長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと、と細かく掲示されている。

一方、第3学年で学習するローマ字学習に関しては、「日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと」という記載のみで、具体的な書字指導については触れられていない。

学習指導要領を元に作成される年間指導計画・評価計画では、教育出版（2020）によると、第1学年で初めてひらがなを学習する際の活動内容として、「教師が書くのを見る。教師と一緒に空で書く。教科書をなぞる→ワークシート→ノート」と記載され、指導上の留意点として、「曲がり方・丸め方・とめ・はらいをゆっくり丁寧に書かせる」と記されている。一方でローマ字単元における書くことに関する学習活動は「大文字・小文字で書くときのきまりを理解する」という記述のみで、具体的な指導上の留意点などは言及されていない。

第3学年（上）の検定教科書4社のローマ字表のフォント比較を行うと、1社をのぞいて児童がそのまま真似をして書ける手書き文字に近いUDフォントが使用されている。児童が初めてアルファベットに触れるのが外国語科ではなく、国語科のローマ字学習の中であることを考えると、第1学年でひらがなを学習する際に示されているような、よりきめの細かい指導の手引きが望まれる。

## 2-2 平成29年学習指導要領の外国語科での「書くこと」の取り扱い

小学校高学年の外国語科（英語）の5領域の中の「書くこと」においては、「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」ことが目標とされ、さらに「語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする」ことを目標としている。注意点として「文字を書く指導に当たり、大文字、小文字を活字体で書かせる際には、「a, c, e」、「f, l」、「g, y」など文字の高さの違いを意識させたり、「p, q」、「b, d」など紛らわしい形などを意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある」と書かれている。

検定教科書を出版している各社の第5学年の年間指導計画作成資料の中の「書くこと」に関する記述に大きな違いはなく、たとえば東京書籍（2020）の活動内容内には「活字体の大文字・小文字を読んだり、書いたりする」と記されている。

手島（2019）は従来アルファベット文字指導で使用されてきたゴシック体などの活字体の小文字は「直立していて、人間の手指の自然な動きに反している」など「入門期の英語の手書き文字=活字体」ということに問題があると指摘をしている。

鹿住（2021:31）は、小学校英語検定教科書7社全ての教科書において文字指導のページで使用されているフォントはUDフォントが採用されていたことを明らかにしている。同

時に、書き順の示し方については教科書によって異なっており、表記の違いによって児童の学習のしやすさが異なる可能性も指摘している。

### 3 英語を母語とする国（イギリス・アメリカ）における手書き文字指導

#### 3-1 イギリスにおける手書き文字指導

イギリスでは 1988 年の教育改革法により全国共通のナショナルカリキュラムが導入され、最新のナショナルカリキュラムは 2014 年 9 月に施行された。5 歳～16 歳までを 4 つの key stage にわけ、そのうち初等教育の 6 年間のうち最初の 2 年間は Key Stage 1、あとの 4 年間は Key Stage 2 と設定され、それぞれのステージ、学年において学習すべき内容が明確化されている。その中で初めて文字を学習する Key Stage 1 Year 1 での手書き文字（Handwriting）の項には、以下のような学習内容が示されている。

Pupils should be taught to:

- sit correctly at a table, holding a pencil comfortably and correctly
- begin to form lower-case letters in the correct direction, starting and finishing in the right place
- form capital letters
- form digits 0-9
- understand which letters belong to which handwriting ‘families’ (ie letters that are formed in similar ways) and to practise these

このようにイギリスでは、小文字から学習を始め、文字の書き始めと終わりの正しい位置、書く方向を意識して指導している。また、それぞれの文字を筆法によってグループ化し、グループごとに練習を行っている。また、Notes and guidance (non-statutory)には以下のように記されている。

Handwriting requires frequent and discrete, direct teaching. Pupils should be able to form letters correctly and confidently. The size of the writing implement (pencil, pen) should not be too large for a young pupil’s hand. Whatever is being used should allow the pupil to hold it easily and correctly so that bad habits are avoided.

Left-handed pupils should receive specific teaching to meet their needs.

Handwriting は繰り返し個々にあった直接的な指導が必要であり、筆記用具にも配慮が必要であると言及されている。また、左利きにも特別の配慮をする必要があると述べられ、これらは日本の児童がアルファベット文字を学習する際にも全て必要なことであろう。

英語の音と文字の対応関係、いわゆるフォニックスの習得はことばの学習の基盤であるとして、イギリス教育省は 2007 年に Letters and Sounds を作成している。この指針に則って現在（2022 年 1 月）イギリス国内の小学校で使用が認められているシステムティック・シンセティック・フォニックスの教材会社は 19 社に上る。この中のジョリーフォニックス（Jolly Phonics）は、指導の際に読み書きを教えるだけでなく、アクションやお話、歌など様々な活動を行う多感覚法（Multisensory Approach）を取り入れるアプローチを使用することで、読み書き習得に支援が必要な学習者に対しても効果の高い指導法として注目され、2018 年時点で母語・第 2 言語環境を問わず世界 120 か国で導入されている。日本におけるアルファベット初学者においても発達段階に応じて系統立てて学習することができるこのアプローチは、学習者の負担を少しでも減らすことに繋がると考えられる。

### 3-2 アメリカにおける b/d 指導

アメリカには全国的な統一の学校制度およびカリキュラムはなく、各州が独自の法律で教育を規制している。そのため、州政府が中心になって教材を選択している州もあれば、各地の学校関係者に任されているところもある。小学校では各州の州憲法及び教育法に基づき、生徒が何を知るべきか、何ができなければならないかということについて、幅広い教育課程の指標を定めている。学区や学校は、一般的に州のガイドラインに沿って教科書を選び、このガイドラインに定められた範囲内で、学校も教員も、児童・生徒の個性に見合った授業内容や進め方を決めるよう求められている。インターネット上において教師による手作り教材が多く見つかることもそのことが関係していると推察している。

たとえばネット上で “b d letter reversal” と検索をすると、趣向を凝らした教材が多く見つかる。教師による手作り教材を販売している Teachers Pay Teachers のサイトでは、2022 年 1 月現在 836 件の “b d letter reversal” に関する教材が販売をされている。このサイトで、“letter reversal” と検索をすると 8,294 件の教材がみつかり、この数字を見るだけでも母語話者を含む英語学習者にとって鏡映文字は分別が難しいものであることがわかる。ディスレクシア（読字障害・読み書き障害）<sup>5</sup>の特性の 1 つに「逆さ文字になる」ことがあるが、この混乱はディスレクシア児に限らず、多くの初学者にとって生じやすいのではないだろうか。b と d の見分け方の 1 つとして、My Teaching Station というサイトでは、以下の 5 つのコツを紹介している。

---

<sup>5</sup> 学習障害の内の 1 つで、特に読むことと書くことにおける困難を示す障害のこと。

① Alphabet Font Choice (フォントの選択)

図 1.

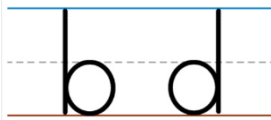


図 2.

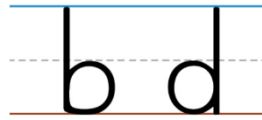


図 1 の従来の ball-and-stick フォントでは完全に逆さ文字のため、見分けがつけにくい  
が、図 2 のフォントの場合には、b にはしっぽがないが、d には犬 (dog) のようにしっぽ  
があり、区別をつけることができる。

② Use Continuous Stroke (一筆書き)

一筆書きで b と d を書くことで、動きと形を関連づけることができる。

③ Letter Formation (文字の形) 文字の形と始点を学ぶ。

図 3.

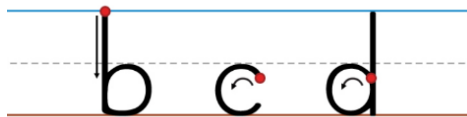


図 3 のように文字の始点と終点を教えることで自然な形成を学ぶことができる。

④ Separate Lessons (別々のレッスンで指導する)

b と d を異なった環境で教えることで印象をつけることができる。

⑤ Related Letter Formation Associations (文字を体やイメージと関連させる)

図 4.



図 4 のように両手を使って b と d の文字をつくり、さらにベッドとのイメージを重ねる  
というのが一般的な覚え方として紹介されている。これらの 5 つのコツは、日本の学習者  
にとってもどれもわかりやすく、指導に取り入れやすいと考える。

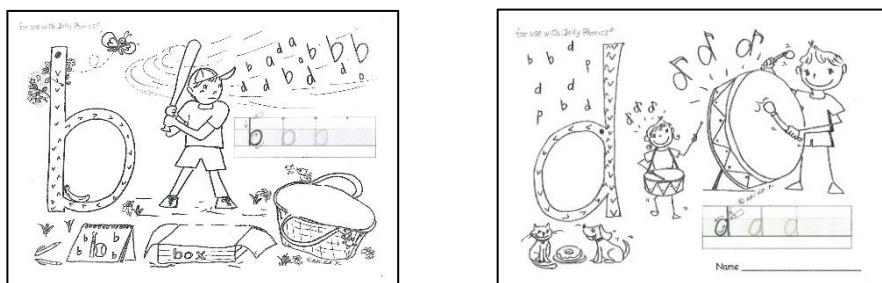
## 4 ジョリーフォニックスを援用した指導の効果測定

### 4-1 調査の方法

2021 年 5 月に自教室の児童がアルファベット 26 文字を書く様子を保護者に撮影してもらった。同年 10 月に自教室の小学 1 年生～6 年生 129 名を対象に川島（2021）作成のジョリーフォニックスの手法を援用した「42 音の楽しく学べるアクティビティシート」（図 5）を用いて、あらためて b と d の指導を行った。そして、再度 11 月に文字を書く様子を撮影してもらい、比較を行った。

今回使用したアクティビティシートは、児童英語講師である川島章子氏が幼児向けにジョリーフォニックスをベースに作成したものである。このシートには、文字の書き方のみならず、b はバット、d はドラムと弁別のヒントとなるイラスト、b と d の弁別活動、さらにそれぞれの音で始まる単語のイラストが随所に描かれ、幼児のみならず小学生も十分楽しみながら、文字の特徴を学習できるものとなっている。

図 5. アクティビティシート



本稿筆者が運営する教室ではアルファベットの文字指導に関しては、未就学児クラスではジョリーフォニックスを使用して、毎回 1 文字ないし 2 文字の小文字を指導している。そして、小学生クラスでは普段の板書指導の中で必要に応じて書き方の指導を行い、特に手書き文字指導に時間は設けていない。そのため、今回の指導は児童にとっては文字の書き方の再確認となった。

### 4-2 結果

10 月の指導後に児童を対象に実施したアンケートでは、①アクティビティシートを使った文字指導を受けた感想、②これまでに b と d を書き間違えた経験の有無、③b と d 以外に間違いやすい文字、④小学校でアルファベットの書き方を学習した経験の有無（3 年生以上を対象）の 4 点について質問した。これにより、学習者がアルファベットに対して



どのような難しさを感じているのかが明らかとなった。アンケート回収率は78%(100名)で、実際のアンケートの内容は本稿末尾の「資料」の通りである。

①のアクティビティシートを使った学習に関する感想や気づきは以下の通りである。まず、質問の「1. アクティビティシートを使った感想」については、自由記述で77件の回答があった。重複する回答などは省略し、学年ごとにその一部を紹介する。なお、表現や誤字・脱字も回答そのままに記載してある。

#### 【小1】

- ・たのしかった。
- ・bdはにてるからまちがえやすい。
- ・bとdがにてる。
- ・dがおんぶににている。
- ・bdまざってたからわからなかった。
- ・さがしげーむをしながらくのがすごくたのしかった。

#### 【小2】

- ・にていることに気づいた。ここがちがう（bとdの楕円の部分に丸をつけて）
- ・かきじゅんをまちがえていたことに気づきました。
- ・絵がわかりやすかった。
- ・色いろなことを、まなべるのでたのしいです。
- ・丸がはんたい。

#### 【小3】

- ・bとdはまちがいやすい。どちらがbとdかぱっと見たかんじだとあまり分らない。
- ・bとdはまちがえやすいからヘッドホンの形でおぼえるといいことがわかった。  
bはバットを書いてボールを書いてdはたいこを書いてバチを書く。
- ・今まですごくbとdをまちがえてきたので、まちがえないようにするきっかけになったと思うのでよかったです。
- ・dの書き方がまちがっていることに気づいた。

#### 【小4】

- ・絵といっしょだとかきじゅんがわかりやすかった。
- ・書きかたによって早くかけるのがびっくりした。
- ・音で覚えようとするのが覚えやすかった。
- ・いつも d と b がわからなくなることがあるのでなおしたいなと思っていたけれどこれからはとくちょうをかんさつしておぼえていこうと思いました。
- ・b を反転すると d になる。にてるからまちがえないようにする。

#### 【小5】

- ・いろんな d や b のたんごを見つけるのが楽しかった。b や d が似ていてむずかしかった。
- ・d は一筆書きで書いた方が書きやすいとわかりました。
- ・いろいろな所に b や d がかくれていておもしろかったです。まちがえないように気をつけます。書きじゅんもちがかったので直したいです。
- ・b はいつもどうりだったけど d はかきじゅんがちがった。

#### 【小6】

- ・b は大文字いっしょの向きだから少しわかりやすい。読む時に、たまにまちがえる時がある。
- ・わかりやすかったです。 [b][d] から始まる英単語が絵の中にあり、英単語の確認もできてよかったです。スペルの確認もできたらもっといいです！
- ・前までは2画で書いていた時もあったけど、b と d の書き方をレッスンでやって、1画で書く方がわかりやすかったです。
- ・たまに b と d をまちがえることがあるので、これからもきをつけようと思った。
- ・b が今までの書き方じゃなくて正しい書き方を知れて良かったです。

共通して挙げられていた言葉には「b と d はまちがえやすい」「たのしかった」「ちがいがわかった」「絵があるとわかりやすい」などがあり、中学年以上では「書き方（一筆書き）によって早く書ける」「書き順がちがった」なども見受けられた。

次に、②b と d を書き間違えた経験に関する質問については、低学年、中学年、高学年、全学年に分けて集計をした。表記はパーセンテージ（小数点以下四捨五入）、カッコの中

は実数（人）である。

表 1. 「2. いままでのしゅくだいなどで、b と d をまちがえてしまったことはありますか」

	はい	いいえ
低学年（1, 2 年）	44%（12）	56%（15）
中学年（3, 4 年）	67%（22）	33%（11）
高学年（5, 6 年）	60%（24）	40%（16）
全体	58%（58）	42%（42）

表 1 から低学年は中学年・高学年に比べると文字を書く分量が少ないため、「いいえ」（「b と d を間違えたことはない」）の方が多かったが、中学年・高学年・全体では間違えた経験があると答えた児童が多かった。やはり児童にとってこの 2 つの文字は区別が容易ではないということがわかる。

③では、b と d 以外の文字で間違いやすい文字があるかどうかについて尋ねた。集計方法は②と同じである。また、「はい」と答えた場合は、どのアルファベットかについても尋ねた。児童の中には、間違いやすいものとして、2 組以上のアルファベットをあげたものもいた。

表 2. 「3. b と d のほかにまちがえやすいアルファベットはありますか」

	はい	いいえ
低学年（1, 2 年）	37%（10）	63%（17）
中学年（3, 4 年）	45%（15）	55%（18）
高学年（5, 6 年）	43%（17）	58%（23）
全体	42%（42）	58%（58）

この質問では、どの学年も約 4 割の児童が「ある」と答えた。

間違いやすい文字としてあげられた中で多かった回答として、「p, q」をあげた児童が 42 名中 19 名と圧倒的に多く、「n, h」が 7 名、「m, n」が 4 名（内 1 名は m, n, h と記述）、「l, l」が 3 名、「E, F」「l, r」が各 2 名であった。

各 1 名が挙げた組み合わせとしては、「Y, y」「y, g」「n, u」「n, r」「n, w」「M, N」「k, h」「J, j」「j, i」「f, t」「a, e」があった。

④では 3 年生以上を対象に、小学校でのアルファベットの書き方指導の有無を尋ねた。

表 3. 「4. 小学校でアルファベットの書き方（書きじゅん）をならったことがありますか」









	はい	いいえ
中学年（3, 4 年）	70%（23）	30%（10）
高学年（5, 6 年）	90%（36）	10%（4）
全体	81%（59）	19%（14）

中学年でも 70%の生徒が「ある」と回答し、これは国語科のローマ字学習の中での学習にあたると思われる。学校副教材として使用されている光文書院（2021）の小学 3 年生向けのローマ字練習帳では、書き順が色分けされ、視覚的に学べるように工夫されている。また使用フォントは UD フォントで、b や d は一筆で書く書き方が示されていた。

鹿住（2021）は小学 1 年生～中学 2 年生 130 名を対象に、アルファベットの小文字の b と d をどのように書いているのかを調査した。今回はその追跡調査として、同様の撮影を行い、書き方の比較を行った。今回は小学生を対象とした研究のため、2020 年 8 月に収集した小学 1 年生～中学 2 年生のデータの内、小学 1 年生～6 年生のデータのみを用いて比較を行った。

以下の表 4 では、b と d の筆順をそれぞれ 4 パターンにわけて、それぞれのパターンで書く児童の人数の割合を示している。撮影に協力してもらった児童の数はカッコ内に示す。

表 4. 書き順分布表

年/月	b1	b2	b3	b4	d1	d2	d3	d4
								
2020/8 (77)	40.3% (31)	50.6% (39)	2.6% (2)	6.5% (5)	32.5% (25)	39.0% (30)	10.4% (8)	18.2% (14)
種別計	90.9% (70)		9.1% (7)		71.4% (55)		28.6% (22)	
2021/5 (89)	66.3% (59)	24.7% (22)	3.4% (3)	5.6% (5)	49.4% (44)	18.0% (16)	21.4% (19)	11.2% (10)
種別計	91.0% (81)		9.0% (8)		67.4% (60)		32.6% (29)	
2021/11 (108)	67.6% (73)	20.4% (22)	8.3% (9)	3.7% (4)	41.7% (45)	13.9% (15)	35.2% (38)	9.3% (10)
種別計	88.0% (95)		12.0% (13)		55.6% (60)		44.4% (48)	

網掛けの筆順が、教科書などで推奨されているものとなる。b に関しては 2020 年と 2021 年のデータを比較してもあまり大きな違いはないが、d を比べてみると、2020 年 8 月から 2021 年 11 月までに d3 と d4 の合計が 28.6%から 44.4%と 15.8 ポイントが上昇し、2021 年 5 月と 11 月を比較しても、11.8 ポイント上昇した。さらに、b と d ともに一筆で書く割合も、2020 年 8 月から 2021 年 11 月と比較すると b は 27.3%、d は 24.8%上昇し、指導による変化が見られた。

## 5 考察

児童が小学校で学ぶ文字には「ひらがな」「カタカナ」「漢字」そして「アルファベット文字」があり、今回は母語として学ぶ初めての文字である「ひらがな」と「アルファベット」のそれぞれの書字指導についての学習指導要領での取り扱いについて比較を行った。「ひらがな」の書字指導については指導の留意点が細かく記載されていたのに対して、ローマ字学習の中で初めてアルファベット文字を学習する際の指導とその具体的な方法については全く記述がないことが明らかとなった。

アルファベットを母語として使用するイギリスでは **handwriting** を系統立てて指導できるように学習者の立場にたった指導手順がナショナルカリキュラムとして作られている。また英語の音と文字を学習するためにシンセティック・フォニックスを導入している。その中のジョリーフォニックスのアプローチは多感覚法を取り入れることで、子ども達の記憶に残りやすく、かつ学習障害や発達障害を持つ子供たちにも高い効果を挙げている。これは母語話者だけでなく、第二外国語学習者にも多く使用されていることから、日本の学習者にとっても高い効果があることが見込まれる。

また、インターネット上の文字学習教材を調査した際に、母語話者においても b-d、p-q など鏡映関係にある文字は混乱を招きやすく、それに対する指導を各指導者が工夫して行っていることを教材の数から垣間見ることができた。これらの文字についてアルファベット文字を日常見慣れている母語話者でも混乱を招きやすいということは、日本の学習者にとっても区別が難しいということが容易に想定される。母語話者にアルファベット文字を指導する際に必要な配慮や留意点は、日本語母語話者の学習者にとっても必要不可欠であると考えられる。アルファベットは漢字などに比べてシンプルであるが故に、教材のなぞり書きのみで文字を習得できると捉えられているとすれば、それは学習者への負担があまりにも大きすぎるであろう。

児童へのジョリーフォニックスの手法を援用した b と d の文字指導の効果測定では、事後アンケートから、ワークシートに工夫を凝らすことで児童は学年問わず書字学習を楽しめることがわかった。その学習の中で児童は、2 つの文字の違い、一筆書きをすることの

書きやすさ、さらにあらためて区別の難しさなどに気付くことができた。アンケート中の自由記述で、「書き順が違った」と書いた児童がいたが、そのように児童に思わせてしまったことは、指導者として説明不足だったと反省している。児童にアルファベットの手書き文字指導を行う際には、アルファベットに決まった書き順はないが、書きやすい方法を提示しているということをわかりやすく伝える必要があると考える。

鹿住（2021:34）の **b** と **d** の筆順に着目した手書き文字の分析調査の追跡調査では、今回のアクティビティシートを用いた学習の効果にプラスして、1 年間の指導の中で **b** と **d** を含む単語が出てきた際などに、書き方の声かけをしてきたことが結果として現れていると考えられる。**b** と **d** を同じように縦棒から書くと **b** を書いたつもりで **d** を書いてしまい、**dog** が **bog** のように間違えてしまうケースが見られていた。書き方を意識することでエラーの件数が減ってきたことは指導を通して実感している。児童からも **b** と **d** を書く際に意識して書き分けるようになってから間違えが減ったという声を聞くことも多く、あらためて文字学習入門期の声かけがその後のスペリングにおけるエラーを軽減させることに繋がる可能性を周知したい。

## 6 おわりに

### 6-1 結論

アルファベットの書字指導はひらがなの書字指導と比較するとその方法が指導者に委ねられている現状は児童の文字習得に負担をかけている。そこで本稿はその問題意識に立って以下の 3 点について検討を行った。はじめに（1）小学校国語科における手書き文字指導と外国語科・外国語活動における手書き文字指導の実際を明らかにした。次に（2）英語を母語とする国々での手書き文字指導の実態を明らかにした。最後に（3）ジョリーフォニックスの手法を援用した **b** と **d** の文字指導を行い、児童の反応や事前・事後の文字の比較を行った。

結論としては、英語を母語とする国々での文字指導方法は、外国語としてアルファベット文字を学習する日本の児童にとっても有益である。ひらがな書字指導同様、初めてアルファベット文字を学習する際には、学習者が困難を抱えやすい文字についての知識を指導者が十分理解して、指導を行うことが必須であるだろう。学習者がその後、英語学習において単語を書く際、間違えやすい文字を意識することは、スペリングミスの軽減に繋がると考えられる。アルファベット文字を初めて指導する際の、指導の指針などが今後具体化されることが望まれる。

## 6-2 今後の課題

本研究では、自教室に在籍している児童に対する b と d を中心とした意識調査や手書き文字の実態調査を行い、学習者が抱える難しさや指導における変化をまとめた。今後も指導を継続する中で、学習者の文字に対する意識、誤りの数、種類などを引き続き調査していきたい。また、今回は英語を母語とする国々での手書き文字指導の実態を調査したが、今後は日本と同様にアルファベットを国字として使用していない国での手書き文字指導の実態を調査し、さらに効果的な指導の方法を模索していきたい。

## 引用文献

- 小野祥康（2021）「小学校英語教科書におけるユニバーサルデザイン～文字指導に焦点を当てて～」『北海道科学大学紀要』第 49 号, pp.1-7.
- 鹿住尚子（2021）「児童英語教育における手書き文字指導 一手書き文字の実態調査より一」『英文学会誌』56 号, 和洋女子大学, pp.26-38.
- 加藤茂夫・入山満恵子・山下佳世子・渡邊さくら（2020）「ジョリーフォニックス指導効果検証の試み 一新潟県南魚沼市の取り組みから一」『小学校英語教育学会誌』第 20 巻, pp.272-287.
- 酒井英樹・小林比出代・滝沢雄一・伊東哲（2018）「外国語として英語を学ぶ初学者によるアルファベットの手書き文字」『日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要』第 37 号, pp.1-18.
- 田中敏隆・安福純子（1975）「文字認知に関する発達（第 2 報）」『大阪教育大学紀要』第 24 巻, pp.85-99.
- 田中真紀子（2017）『小学生に英語の読み書きをどう教えたらいいか』, 研究社.
- 土屋佳雅里（2019）「小学校外国語（英語）教育とローマ字教育の考察 一外国語活動と国語科ローマ字学習の連携を考える一」『上智大学短期大学部紀要』第 40 号, pp.57-72.
- 手島良（2019）『これからの英語の文字指導』, 研究社.
- 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』, 開隆堂出版.

## 参考文献

- 細井健・森下裕三（2018）「小学校英語教育における handwriting（書き方）指導について」『環太平洋大学研究紀要』第 12 号, pp.251-257.
- 山下佳世子監訳（2017）『はじめてのジョリーフォニックス 一ティーチャーズブック一』, 東京書籍.
- 光文国語教材研究会編（2021）『ローマ字の学習』, 光文書院

## 使用教材

川島章子 (2021) 「42 音の楽しく学べるアクティビティシート」  
「ゆーかりのにわ」 教室 URL : <https://akikomommy.jimdofree.com/>

## 小学校検定国語教科書

教育出版 (2020) 『ひろがる言葉 小学国語 三上』  
光村図書 (2020) 『国語 三上』  
東京書籍 (2020) 『新しい国語 三上』  
学校図書 (2020) 『小学校国語 三年上』

## 年間指導作成資料

教育出版 (2020) 『ひろがることば しょうがくこくご 一上』  
教育出版 (2020) 『ひろがる言葉 小学国語 三上』  
東京書籍 (2020) NEW HORIZON Elementary English Course 5  
学校図書 (2020) JUNIOR TOTAL ENGLISH 1  
三省堂 (2020) CROWN Jr  
教育出版 (2020) ONE WORLD Smiles 5  
光村図書 (2020) Here We Go! 5

## 引用ウェブサイト

My Teaching Station, (URL : <https://www.myteachingstation.com/teaching-learning/how-to-eliminate-b-d-letter-reversal>, 2022 年 1 月 20 日閲覧)  
Teach Handwriting, (URL : <https://teachhandwriting.co.uk/index.html>, 2022 年 1 月 15 日閲覧)  
Teachers Pay Teachers (URL : <https://www.teacherspayteachers.com/>, 2022 年 1 月 20 日閲覧)  
The National Curriculum, (URL : <https://www.gov.uk/government/collections/national-curriculum>, 2022 年 1 月 15 日閲覧)  
American Center Japan, 「アメリカ合衆国のポートレート—第 6 章『多様な教育制度』」  
(URL : <https://americancenterjapan.com/aboutusa/profile/1937/>, 2022 年 1 月 15 日閲覧)  
kayokoyamashita.com, (URL : [kayokoyamashita.com](http://kayokoyamashita.com), 2022 年 1 月 26 日 閲覧)



資料 アンケート内容

名前	クラス	記入日
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
<p>しつもん1) 9/28~10/2のレッスンで、上のbとdのプリントを しましたね。❷</p> <p>やってみた かんそうや きづいたことなど じゆうに わくの中に かいてください。❸</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div>		
<p>しつもん2) いままでのしゅくだいなどで、bとdを まちがえてしまったことは ありますか。❹</p> <p>1. はい                      2. いいえ❺</p>		
<p>しつもん3) bとdのほかに まちがえやすい アルファベットはありますか。❻</p> <p>1. はい                      2. いいえ❿</p>		
<p>★ はい をえらんだ人は どのアルファベットか おしえてください→</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <div style="border-bottom: 1px solid black; height: 10px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px solid black; height: 10px; width: 100%;"></div> <div style="border-bottom: 1px solid black; height: 10px; width: 100%;"></div> </div>		
<p>しつもん4) 3年生以上の人に しつもんです。❶</p> <p><u>小学校で</u> アルファベットの 書き方(書きじゅん)をならったことが ありますか。❶</p> <p>1. はい                      2. いいえ❶</p>		
<p>【保護者の方へのお願い】 お子様の学校の国語や英語の副教材などで、『ローマ字/アルファベットの書き方練習帳』のようなものがありましたら、①教材の表紙と②アルファベットの書き順が載っているページの写真を講師まで送って頂けますでしょうか？ 研究の参考にさせていただきます。❶</p> <p>よろしくお願いいたします。❶</p> <p style="text-align: right;">ご協力頂きありがとうございました(井.＼井)❶</p>		